

令和元年度 病害虫発生予察情報(美濃地域) 10月予報

【 トマト・キュウリ 】

虫媒ウイルス病

トマト施設周辺に設置している粘着板へのコナジラミ類の誘殺数は平年並に推移しています。今後は気温の低下とともに、施設内へ侵入すると予想されます。トマトではタバココナジラミが黄化葉巻病のウイルスを、キュウリではミナミキイロアザミウマが黄化えそ病のウイルスを媒介します。施設内をよく観察し、発病株を確認した場合は、伝染源となるため早く取り除き、それぞれの害虫に効果の高い薬剤によって防除を実施してください。

【 野菜類 】

トマト灰色かび病 * 病害虫発生予察注意報第4号 (R1.9.25付) 発表

夏秋トマトでは、9月上旬以降、天候不順により、葉先枯れや花がらなどの枯死部に本病による胞子の形成が多数認められ、果実にも被害が出ています。罹病部から果実への感染拡大を防ぐため、罹病部除去とともに伝染源となる花がら、葉先枯れは早めに取り除き、ほ場外へ持ち出して処分してください。

○主な病害虫の発生時期及び防除時期(10月)

作物	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	
かき	カメムシ類	やや多							・園への突発的な飛来に注意する。 ・防除時は収穫前日数に注意する。
	防除適期		(ほ場で確認したら速やかに行う)						
トマト	灰色かび病	多							・サイドビニール被覆を行うと、本病の発生が助長されるため、発生に注意する。
	防除適期		(ほ場で確認したら速やかに行う)						
野菜類	ハスモンヨトウ	やや少							・薬剤抵抗性がつきやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。
	アザミウマ類	並							
	アブラムシ類	並							
	防除適期		(発生状況により随時行う)						

<施設>

イチゴ	ハダニ類	並							・炭疽病 発病株はただちにほ場外へ除去する。
	炭疽病	並							
防除適期			(発生状況により随時行う)						
トマト	コナジラミ類	やや多							・コナジラミ類 薬剤抵抗性がつきやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。
	灰色かび病	少							
防除適期			(発生状況により随時行う)						
キュウリ	褐斑病	少							・褐斑病 罹病性品種では発生に注意する。 ・うどんこ病 発病がみられるほ場では早期に防除を行う。
	うどんこ病	少							
	べと病	少							
	防除適期		(発生状況により随時行う)						

注1) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域

注2) 調査品種：かき(富有)、トマト(夏秋 桃太郎ギフト及び桃太郎サニー、冬春 CF桃太郎J：葉かび病抵抗性品種)イチゴ(濃姫・美濃娘)、キュウリ(カレラ：褐斑病耐病性品種)

イチゴ ハダニ類

9月下旬の調査では、ハダニ類による葉の吸汁痕や本虫の寄生が平年より多いほ場が認められました。本虫の寄生は苗の持ち込みによるものと考えられます。

今後、気温は低下しますが、1カ月予報では平年よりも気温は高いと予報され、施設内では生育適温が続くと思われます。本虫の増殖スピードは速く、防除が遅れると、被害が拡大します。ほ場での発生状況に注意し、寄生が見られる場合は防除を実施してください。特に天敵を導入する場合は、導入前にハダニ類の密度を抑えてください。

なお、防除にあたっては、葉裏に棲息するハダニ類に直接薬剤液がかかるよう、丁寧に散布してください。また、薬剤抵抗性がつきやすいため、同一系統薬剤の連用は避けてください。



図 イチゴのハダニ被害
(左上はナミハダニ成虫)

＝施設栽培の病害虫について＝

施設栽培では、作型や栽培環境などにより施設ごとに病害虫の発生状況が異なります。施設内をよく観察し、病害虫の発生状況に応じた防除を実施してください。

東海地方1カ月予報(名古屋地方気象台9月26日)

向こう1カ月の気温は高く、降水量は平年より多く、日照時間は少ないと予想されます。天気は数日の周期で変わりますが、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/>

〒501-1152 岐阜市又丸729-1 TEL (058)239-3161 FAX (058)234-0767